

①クロミフェン(クロミッド、セロフェン)

現在クロミッドは最も使われている排卵誘発剤です。セロフェンも内容は同じ薬です。

作用機序

なぜクロミッドを内服すると卵胞が育つかというと、クロミッドの抗エストロゲン作用により脳のゴナドトロピン放出ホルモンの分泌を増加させます。その結果下垂体から FSH 分泌が増えて卵胞数が増加し、卵胞の発育速度が早くなります。

適応

①無排卵症

PCOS 等の無排卵症例に対して効果的と言えます。

②原因不明不妊

原因不明不妊に対しては、妊娠しやすくなるために複数個の卵胞を作る事は確率を上げるため有用と言えます。

③黄体機能不全

クロミッドの良い点として黄体機能不全の治療になるという事もあげられます。つまりクロミッド内服により良い卵胞が出来るため、排卵後に卵胞が黄体に変わり、良い黄体が出来ます。その結果黄体ホルモンが増加して黄体機能不全の治療にもなります。

投与方法

内服の仕方は生理3~5日目から1錠/日を5日間で開始します。1錠で効果がない場合は2錠/日に増やします。最大3錠まで増加します。

治療成績

排卵率は約8割程度といわれていますが妊娠率は約2割程度です。

副作用

クロミッドの副作用ですが①視野障害:霧視(5%未満)、②頭痛(5%未満)がまれに見られます。また半年といった長期間続いていると③子宮内膜が薄くなる、④頸管粘液が少なくなるといった副作用が出てきます。つまり長期間用いるとこういう副作用のため妊娠しにくくなります。

⑤多胎:多胎率は8%程度と言われています。

⑥卵巣過剰刺激症候群:クロミッド内服で OHSS を起こす事はまれと言えます。